

## 南西諸島および台湾のウスモンアメバチ属 *Leptophion* の分類学的研究

清水 壮 (筑波大学 生物学類) 指導教員: 町田 龍一郎 (筑波大学 生命環境系)

### 【背景】

ウスモンアメバチ属 *Leptophion* は膜翅目ヒメバチ科アメバチ亜科に属する寄生蜂の一群で、東洋区、オーストラリア区、オセアニア区から 30 種が知られている (Gauld 1977; Gauld & Mitchell 1981). 灯火に飛来することが知られているものの、生態的知見は乏しい (Gauld 1985; Gauld & Mitchell 1981). 本属は、特にスダ棚の島嶼域に高い種多様性が知られる南方系のグループであり、その他の地域での種多様性は低いと考えられてきた (Gauld 1985). そのような中、筆者は南西諸島および台湾から本属の正体不明の複数種を確認した. 本研究では、日本産および台湾産の本属の分類学的検討を行うとともに、南西諸島から台湾にかけての島嶼域における種多様性、台湾産種の季節消長、分布を議論した.

### 【材料・方法】

本研究では、台湾の行政院農業委員会農業試験所、日本の農業環境技術研究所および北海道大学総合博物館に収蔵されている日本産標本 3 個体、台湾産標本 72 個体の合計 75 個体の標本を検討した.

形態の観察は、ニコン社製の双眼実体顕微鏡 SMZ1500 により行い、写真は同社製のデジタル一眼レフカメラ D90 により撮影した. 写真の深度合成は Combine ZP, 写真および図版の編集はマイクロソフト社のペイント, Adobe 社製の Photoshop<sup>®</sup> と Illustrator<sup>®</sup> で行った.

### 【結果】

全標本を形態種に分類した結果、南西諸島 (屋久島と奄美大島) から 2 種 (図 1A, B), 台湾から 3 種 (図 1C-E) の計 5 種の存在が確認された.

日本産 2 種を既知種全種の記載や標本と比較した結果、いずれも未記載種であったため、Shimizu & Watanabe (2015) においてヒメウスモンアメバチ *L. purvus* (図 1A) およびオオウスモンアメバチ *L. septentrionis* (図 1B) として記載を行った.

台湾産 3 種を既知種全種の記載や標本と比較した結果、2 種は台湾から既に記録がある *L. maculipennis* (図 1C), *L. radiatus* (図 1E) と同定されたが、残る 1 種は未記載種 *Leptophion* sp. (図 1D) であることが確認され、新種記載論文を *Zootaxa* 誌に投稿中である (未記載種は *L. giganteus* の種名で記載予定).

### 【考察】

本研究により南西諸島および台湾から 5 種が確認され、その内 3 種は未記載種であった. これらの未記載種の発見は、東洋区北部にも高い種多様性が存在することを示唆するものである. さらにオオウスモンアメバチは屋久島から得られており、これは旧北区における本属の初の記録であった.

台湾産 3 種について標本のラベルデータをもとに季節消長を比較した (図 2). *L. maculipennis* と *Leptophion* sp. は 10–3 月、

*L. radiatus* は 7–9 月にピークがあることが分かる. この季節消長の差異は各種の適応気候や適応標高などの適応環境の差異によるものと考えられ、*L. radiatus* が高標高地、*Leptophion* sp. が中標高地、*L. maculipennis* が低標高地の気候に適応した結果であると考えられる. 実際、*L. radiatus* は標高 2,100 m 以上、*Leptophion* sp. は標高 1,200–1,630 m、*L. maculipennis* は標高 850–1,200 m で採集されている. これは *L. radiatus* が東洋区北部のネパールなどの内地に広く分布すること、*L. maculipennis* が熱帯地域の島嶼域などに広く分布することと矛盾しない.

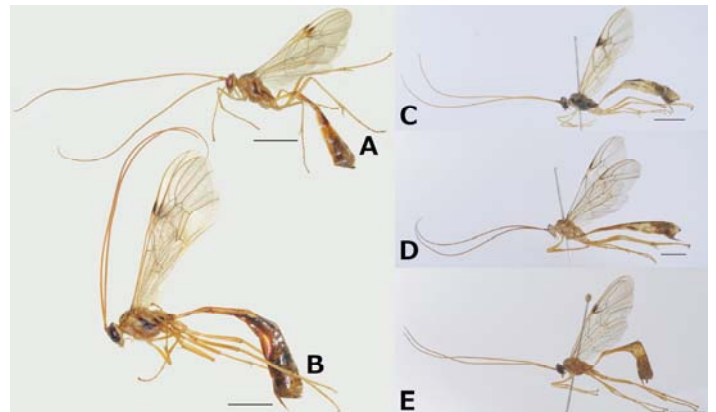


図 1. 日本産 (A, B) および台湾産 (C-E) ウスモンアメバチ属.

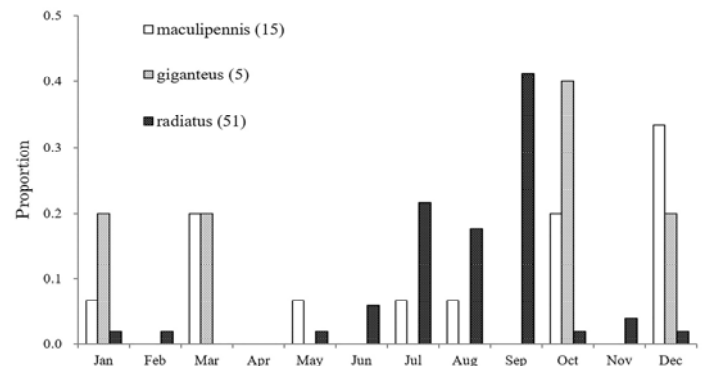


図 2. 台湾産種の季節消長.

### 【謝辞】

本稿の校閲と助言をして頂いた神奈川県博の渡辺恭平博士と神戸大学の前藤薫博士に深く感謝する.

### 【参考文献】

- Gauld, I.D. (1977) *Australian Journal of Zoology (Supplementary Series)*, **49**: 1–112.  
 Gauld, I.D. (1985) *Bulletin of the British Museum of Natural History (Entomological Division)*, **51**: 61–185.  
 Gauld, I.D. & P.A. Mitchell (1981) *The Taxonomy, Distribution and Host Preferences of Indo-Papuan Parasitic Wasps of the Subfamily Ophioninae*. CAB: Slough. Commonwealth Institute of Entomology, London, 611 pp.  
 Shimizu, S. & K. Watanabe (2015) *Zootaxa*, **4000**: 111–122.